

日本人のルーツ、佐世保に痕跡



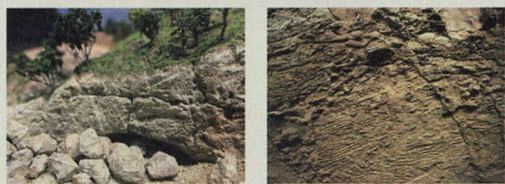
佐世保市で日本最多31か所の洞窟遺跡

日本考古学協会による西北九州の発掘調査からはじまった佐世保市域の発掘調査。岩下洞穴、下本山岩陰、泉福寺洞窟など、数はもちろん、日本人の祖先が日本に足を踏み入れた先史から現代までを洞窟を通じて通史で語れる「洞窟遺跡日本」の「まち」と調査に長年携わった久村貞男さん(74)は胸を張る。

【関連2-3面】



豆粒文土器



福井洞窟ミュージアム・オープン

50年振りの再発掘調査を終えた福井洞窟ミュージアムの開館が迫っている。館に勤務予定の小林祐子さん(32)は、1万9千年にわたる日本人の歴史、60年の研究成果を是非見に来てほしい」と意気込みを語った。

【関連8面】



飯盛城絵図

市内在住のグラフィックデザイナー、垣田鉄郎さん(46)は、足掛け10年以上、佐世保の戦国時代をテーマとした在野のフィールドワークを続けている。現在は古書、証言、遺構を参考に、精緻な絵図で山城の再現に取り組む。【関連6-7面】

佐世保の古城再現 絵図の制作進む

佐世保考古新聞

SASEBO ARCHAEOLOGY NEWSPAPER

佐世保市文化振興課

〒85-8585 長崎県佐世保市八幡町 1-10 電話 0956-24-1111 (2731)

特集 近代以前の佐世保

ブラサセボ 「佐世保市吉井町〜洞窟日本一のまち!?」

発掘♡ラブ 柳田文化財専門員を掘る

考古学と妄想が生む戦国絵巻

福井洞窟ミュージアムオープン

【2-3面】(P1-2)

【4-5面】(P3-4)

【6-7面】(P5-6)

【8面】(裏表紙)

TOPIX

トピックス

Fukui Cave Museum

今回特集で取り上げた「洞窟遺跡日本一のまち」佐世保を体感できるガイダンス施設、福井洞窟ミュージアムがいよいよオープンします!

- 見どころ 01 「発掘現場の地層」
6mの実物をまるごと展示! 福井洞窟の発掘現場からそのまま移設した地層と、旧石器から縄文に至る洞窟の暮らしを再現したジオラマ&動画上映コーナー。
- 見どころ 02 「暮らし体験室」
縄文時代の暮らしを体験! 土器バズルや古代の編み物などを実際に体験できるコーナー。定期的にワークショップも開催予定。
- 見どころ 03 「石器づくり動画コーナー」
石器のつくり方をマスター! 縄文人に扮した男性が、当時の石器づくりを再現してくれる動画上映コーナー。君も石器が作れるようになるかも!?



2021年 4月28日 オープン

福井洞窟ミュージアム Fukui Cave Museum



展示資料 約500点
場 所 佐世保市吉井町立石473
開館時間 9:00~17:00
休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合は次の平日)、年末年始(12/29~1/3)
利用料金 観覧料/無料
駐車場/無料(駐車台数に限りがあります。ご了承ください)
レンタサイクル/有料
ア ク セ ス 車/西九州自動車道佐々ICより約15分
バス/JR佐世保駅から西肥バス「平戸バス平戸橋行」半急行で45分「吉井バス停」下車徒歩5分。
鉄道/JR佐世保駅から松浦鉄道「平戸・伊万里方面行」で55分。「吉井駅」下車徒歩10分。
問い合わせ 0956-64-3830(福井洞窟ミュージアム)

こちらもチェック! / CHECK

毎月、市内文化施設のイベントカレンダーを佐世保市ホームページ、Facebookページ「文化のチカラ」に掲載しています。



かつての川のライン

久村：ほかにも、あの地形の横長のライン見えるかな？昔、川が流れてたんだよ。川の流れにえぐられるような形でこの洞窟ができた。そして雨風をしのげる洞窟に人が定住するようになって、日本人の祖先といえる人たちのライフスタイルが大きく変わったことが、この地形や発掘されたものから読み取れるんだ。

小林：あの地形が川の名残なんですか。

あの高さまで水があったと想像すると不思議な感じがします。土地の歴史は色んなところに刻まれているんですね。久村さんはどんな風に考古学と出会ったんですか？



久村：高校の時に通ってた塾の先生から、「青少年の天地のそばの池が枯渇して、佐世保の旧石器時代の遺物が出土した」という話を聞いたのが興味を持ったきっかけ。何がどこで人生を決めるかわからないね。実は、1960年にはじまった福井洞窟の発掘調査には、高校生の時に見学に来たんです。当時は、戦後、日本人のルーツを見つけようという機運が大きく高まっていて、中央から多くの著名な考

小林：ところで、現在、洞窟の上にある神社と遺跡はなにか関係があるんでしょうか？

久村：神社自体は、この洞窟の近くにある中世の山城「直谷城」を守るために、城から見て風水上重要な鬼門にあり、ここに神様を祀ったもので、直接の関係はないと考えられている。けれど、理由なく洞窟に惹かれる人の気持ちはわかる気がするなあ。この岩の模様も古代人が掘ったものかもしれない。今でいうアートだね。

これが石器の元だ！



古学者が調査団としてここに集まってきた。その時、発見された石器や土器が当時の考古学界に大きなセンセーションを巻き起こすことになる。

この黒い石、安山岩というんだけど、これが加工がしやすい石器づくりにぴったりだったんだね。



古代人が掘ったアート？

小林：そう考えると、福井洞窟は、種のパワースポットみたいなものかもしれないですね。ますます興味が湧いてきました。久村さん、今日はどうもありがとうございました！

福井洞窟

佐世保市吉井町、福井川の上流に位置し、稲荷神社の境内にある間口12m、奥行6m、高さ3mの岩陰上の洞穴。1960年の調査により「隆起線文土器」等が発掘され、旧石器時代から縄文文化の成立に関する成果により、国の史跡に指定されている。

もっと知ろう！「福井洞窟WEBガイド」

<https://www.fukuicave.jp/wg/>



Bura Sasebo #01 Navigator

久村貞男 (ひさむら さだお)

佐世保市生まれ。佐世保地区連合史跡保存会 会長。佐世保市教育委員会で学芸員として、市内の多くの遺跡発掘調査に携わる。退職後は、在野の考古学研究者として活動。現在、ライフさせばで「ぶらっと SASEBO」連載中。

小林祐子 (こばやし ゆうこ)

佐世保市生まれ。美術教育を学んだ後、佐賀県立九州陶磁文化館を経て、現在、佐世保市教育委員会文化財課所屬。2021年4月から福井洞窟ミュージアム職員となることから、目下、考古学について勉強中。

ブラサセボ Bura Sasebo #01

「佐世保市吉井町～洞窟日本一のまち!?～」

久村：福井洞窟にやってきました。私は春から福井洞窟ミュージアムで働くことになっていまして、今必死で勉強しているところです。今日は歩きながら色々教えてください！さて、いきなりですが、久村さんにとって、考古学の面白さってなんですか？

久村：誰も知らなかった事実を「発見」することかな。簡単にいうと、自らの発見で歴史が書き換えられるんだ。例をあげれば、市政70周年を記念して編纂された佐世保市史、古代から平安時代までの記述はわずか18ページしかなかった。でも、その30年後に編まれた市史だとなんと500ページに増える。これは30年の間に重ねられた発見によって佐世保の歴史の厚みが増したと言える。面白くないかな？

ほらここにも土器発見(と茶色いカケラを拾う)。

小林：えっ、土器ってこんな普通に落ちてるものなんですか？

土器発見!!



小林：実は、発掘された埋蔵文化財は遺失物法によって警察に届けることになってるんです。面白いですよね。でも普通に歩いていると見逃してしまいう。

久村：そうなんです。土器の発見は、食物の保存や煮炊きを通じて、人類の食生活で生活を大きく変えたエポックメイキングな出来事。縄文時代は土器づくりからはじまった。そんな土器だけど、世界でも古い時代の土器が発掘されているのも佐世保の面白さ。ちなみに拾って帰って帰っちゃダメだよ！古代人の落とし物は警察に届けよう(笑)。

人が残した遺跡、遺構や遺物を手掛かりに、昔の人々の暮らしを研究する「考古学」。この「考古学」メカネをかけて歩けば、佐世保はお宝の山!? 60年近くにわたり佐世保の考古学の世界を切り開いてきた久村貞男さんと、4月オープン予定の福井洞窟ミュージアムの職員となる小林祐子さんに福井洞窟を歩いてもらいました。

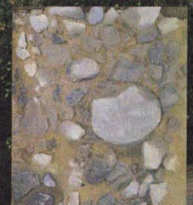
柳田文化財専門員を掘る!

2012〜2013年に実施された、50年ぶりの福井洞窟発掘調査に従事した柳田さん。実は遺跡発掘を愛するあまり、そのステージを求めて宮崎県から佐世保へ移住して来られたのです!そんな発掘ラブな柳田さんにその面白さを聞きました。

「古代人も人間」

学生の時にたまたま読んだマンガが考古学の世界との出会い。旧石器時代、縄文時代の人って聞くと、現代を生きる僕らとは距離があって理解し合えないようなイメージがありませんか?でも考古学なら、当時の暮らしの痕跡が真空パックされたみたいに眠っている土の下から、人間味溢れる生活を取り出すことができます。

今回の福井洞窟の再調査では、旧石器時代の遺跡で初めての炉跡(ろあと、たき火の跡)が見つかりました。火を囲んで、家族で囲らしたり、仕事をしたり、そんな現代とも変わらない文化が1万年以上前にもあったんだ、と感じられます。平らな石を敷いている(石敷)はフLOORリングみたいなもの。発掘は時を超えた古代人との対話の時間ですね。



福井洞窟13層で見つかった石敷



「佐世保の洞窟はスーパースター」

特に福井洞窟の場合、6m 15枚もの地層が重なっているのが特徴で、少なくとも6千年間におよぶ人々の暮らしや道具の移り変わりをこの1か所だけで見れるのが非常にレアなところですね。

同時期の遺跡は日本に約1,800か所ありますが、当時使っていた細石刃という槍をつくる石器の出土数が一般的な遺跡の10倍以上あって異常です(笑)。今でいう東京のような都会だったのかも知れません。

福井洞窟をはじめ佐世保の洞窟遺跡は、質量ともに全国的にも考古学界のスーパースターレベルなんです。それに、縄文時代って、稲作農耕をしなくても、土器を作って、定住していたという世界的にはちょっと不思議な日本の文化なんです。

そんな興味をそそられる場所で、憧れの考古学者たちが集結し、最先端の技術をもって行われる再調査、これは自分も是非参加したい!と、僕も宮崎から飛び込ませていただきました。このように誇れる遺産がこんなに身近にあること、もっと佐世保のみなさんに知っていただきたいですね!



YUZO YANAGITA
柳田裕三 (やなぎた ゆうぞう)
佐世保市教育委員会文化財課 主査。
1979年宮崎県延岡市北方町生まれ。10代より発掘の世界にハマリ 2008年遺跡発掘の仕事求めて佐世保市へ移住。



TOOLS

俺の相棒 | 発掘調査アイテム



図面制作中!

発掘 編



♥バカボー君

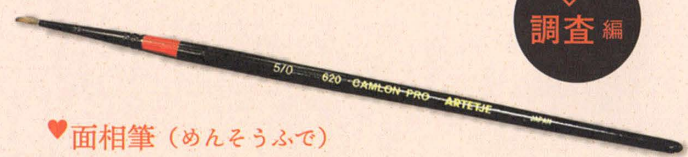
バカでもちゃんとスケールが測れるということが名前の由来という説がある「バカボー君」。発掘調査では、地層、水平とにかくいろんなものを測ります。

♥通称「ガリ」

地層と平行にフレッシュな面をいかに壊さずガリガリ掘り起こせるかが、プロに求められるテクニック。うまくやれば地下で保存された遺産が数千年ぶりに空気に触れる瞬間に立ち会えます。



調査 編



♥面相筆 (めんそうふで)

土器・石器の洗浄から、出土地の記入までマルチな活躍してくれる、本来は日本画用の細い筆です。



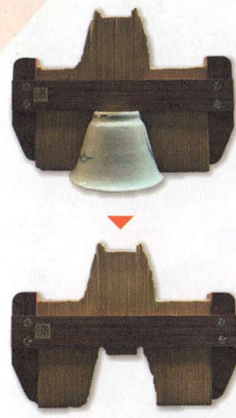
♥キャリパー

定規では測れない立体物の厚みを測ります。



♥真弧 (まこ)

細かな凹凸を正確にかたどれる竹製の道具。とても日本らしい繊細な道具です。



♥計測器 (オリジナル)

ろくろを改造して作ったオリジナル計測器。これをぐるぐる回し、様々な角度からの検証を行いながら、図面に落としていきます。



佐世保にあった山の城と海の城 考古学と妄想が生む戦国絵巻!

日本の15世紀から16世紀、戦乱が頻発したいわゆる戦国時代。その頃佐世保地域にもたくさんの個性豊かな城やドラマがあった…。佐世保の戦国時代の面白さを伝えるWEBサイト「佐世保戦国.com」を主宰する垣田さんにその魅力を解説してもらいました。



針尾城想像図

針尾城
海の城

所在地	針尾中町	創建者	針尾氏
年代	???~???	形式	城館
標高	25m		
遺構	土塁・空堀・平場・建物跡・遺物		



HARIO CASTLE

古くから針尾島を支配していた針尾氏によって建てられたと思われる謎も多い「海の城」。2004年の発掘調査では、輸入陶磁器が多く出土し、当時から海外との交易を行っていたことがわかります。



城主、針尾伊賀守は、歴史の教科書にも出てくる宣教師ルイスフロイスが残した「日本史」に、「ハリボウ」という名前でも登場するなど、小さな島の武将にもかかわらずとても国際的。

ルイス・フロイス (1532~1597)

ちなみに、伊賀守が起こした宣教師を襲った「横瀬浦事件」は、彼の領地であり貿易港として栄えていた横瀬(西海市)から長崎へ宣教師たちが移転するきっかけに。これがなければ江戸時代の出島は、横瀬にできていたかも知れません!

城主
針尾伊賀守貞治

(???~1572)



直谷城
山の城



垣田鉄郎(かきた てつろう)
カキタデザイン事務所代表。グラフィックデザイナー。趣味の遺跡巡りが高じて、佐世保の戦国時代を中心とした研究・妄想をビジュアルで表現するウェブサイト「佐世保戦国.com」を主宰する。現在サイト上では、より精細な城絵図を書き起こすプロジェクトも進行中。必見。

佐世保戦国.com



直谷城想像図

所在地	吉井町直谷字内裏
創建者	志佐真
年代	寛元年間(1243-1247) ~ 元和元年(1615)
形式	山城
標高	175m
遺構	郭・土塁・木戸・井戸・天守台・石塁

城主
志佐純意

(???~???)



NAOYA CASTLE

標高175m、直谷の名のとおり砂岩の断崖を利用した天然の要塞で、平安末期から約460年もの間存在したこれぞ「山の城」という風格。保存状態がよくて今でも遺構を見にいけるのもポイント高いです。

歴代の城主はこのエリアを古くから治めていた志佐氏。鎌倉時代、モンゴル軍が攻めてきた元寇の際にも活躍したといわれています。

一方、3度にわたり落城したこともあり、その原因も内紛だったり…お姫様を断崖絶壁から逃がした伝説があったりと、エピソードに事欠かないのも面白いところ。商業高校の学生が日英併記のウェブサイトにて研究をまとめてくれています。

佐商 直谷城レポート

